



むくの木

No.2 5月号

学校教育目標

- [知] 進んでできる子・考える子
- [徳] 心豊かな子
- [体] たくましい子



子供ファースト（子供を第一に考える）の教育を

校長 佐藤 貴広

朝日西小学校を見守る校庭の「むくの木」。4月当初はまだ若芽が一斉に吹き出した様子でしたが、今では無数の青葉が茂り、樹木全体が一回り大きくなったように見えます。大きな木陰に子供たちが集い活動する姿は、本校ならではの光景ではないでしょうか。



さて、本校は児童数197名の小規模校です。その利点を生かし4月10日の入学式には6年生も同席して新入生を温かく迎えることができました。18日には、体育館に一堂に会し、オンラインが主流だった音楽朝会を全校で行うことができました。ピアノの音色とともに、「笑顔、やる気、元気いっぱいの朝日西小学校」を体現する子供たちののびやかで明るい歌声が館内に響きました。2年生から6年生は、国歌と市民歌を1年生の手本になるように歌いました。1年生も毎朝練習している校歌を上級生と一緒に歌うことができ満足そうでした。上級生から下級生まで異年齢の子供たちが一緒に活動し、その体験の中から学び取ることの教育的効果はとても大きなものがあります。少子高齢化で、幅広い年齢の子供たちが自然と一緒に遊ぶ機会が少ない時代にあって、兄弟姉妹の立場を経験していくことのできる異年齢同士の活動は、子供たちの社会性を育むうえで大切な教育です。今月開催の運動会では、全校での大玉送りと学年代表による対抗リレーも行うこととしました。異年齢の子供たちが一つの目標に向かって協働して取り組むことで、知識では得られない、体験から学び取る経験をしてほしいとの教職員の願いが込められています。

今月の8日から新型コロナウイルスの分類が2類から5類となり、これまで制限せざるを得なかった活動もできるようになります。そこで大切なことは、全てをコロナ前に戻すのではなく、これまで行ってきたことを改めて見直し、「ポストコロナ（コロナ以後）」の教育として、何が本当に「子供ファースト（子供を第一に考えること）」なのかということです。全教職員で知恵を絞って学校運営に取り組んでまいります。保護者、地域の皆様には、ご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。